

令和3年度 町技バドミントン選手の主な活躍



1 / 6月26日～27日まで深川市で行われた小学生ABC大会に松下君ほか5人の小学生が出場しました。松下君は男子シングルス（5・6年の部）で優勝し、全国大会への出場権を獲得しましたが、全国大会は中止となりました。その代替大会が埼玉県さいたま市で11月6、7日に開催され、松下君は初戦を突破しましたが2回戦で敗退となりました。**2** / 7月30日に岩見沢市で行われた中体連全道大会に白糠中学校バドミントン部が出場しました。**3** / 8月10日に函館市で行われた第40回全日本ジュニアバドミントン選手権大会ジュニア新人の部北海道予選に松下姫香さんと松下一誠君のきょうだいが出場。姫香さんは2回戦で、一誠君は1回戦で敗退となりました。**4** / 10月16日から岩見沢市で行われた北海道小学生バドミントン大会に松下君ほか3人の小学生が出場。松下君は優勝、木下晴楽さんは3位に入賞し、それぞれ全道大会への出場権を獲得しました。**5** / 10月の全道大会で優勝した松下君と3位の木下さんが12月27日から福島県で行われた全国大会に出場。木下さんは初戦を突破し、2回戦も健闘しましたが惜しくも敗退となりました。**6** / 令和4年1月7日～9日まで江別市で行われた第40回北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会に白糠中学校バドミントン部が出場しました。



トロフィーと賞状を手にする松下一誠君

しい実績と技術を持った方に指導していただけるなんて、本当に恵まれています。技術的な部分はもちろんですが、精神的な部分の指導も大きな影響がありました。一誠はまだ小学生なので、気持ち焦っているときは顔や態度に出ています。全国大会のようレベルになると、そういう精神的な部分が重要になってきますので、チャンドラさんの指導がなければ、今回の大会で優勝することはできなかったかもしれません。一誠本人も頑張っていますので、

全国大会までは自分の力で行ったとしても、そこから優勝に結びついた結果は、チャンドラさんとの練習の成果だと思います。チャンドラさんは「一誠君は身体能力がすばらしく、頭もいい。そして、最後まで諦めないという強い気持ちも持っています。本大会の準々決勝で劣勢の場面がありました。そこからは諦めなかったからできたのは諦めなかったからです。バドミントンはどうやってチャンスをつくるかが大事なことで、途中で諦めてし

まったら、そのチャンスも逃してしまいます。一誠君はまだ5年生ですが基本がしっかりしているの、まだまだ上手になれる」と評価していました。 **夢がなかってうれしい** 松下君が初めて全国大会に出られるようになったのは小学2年生の頃です。それから全国優勝を目標に頑張ってきました。松下君は、本大会の優勝を振り返り「始めて全国優勝できたので、夢がなかったという感じで本当にうれしいです」と、率直な気持ちを話してくれました。 昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、すべての大会が中止。練習も思うようにできないような状況でした。そのような中でも、縄跳びや筋力トレーニング、ランニングなどの基礎体力作りは欠かしませんでした。父親の勝至さんは「目標にしていた大会が中止になり、悔しい思いをしましたが、上を目指すと強い気持ちがありましたので、コロナの期間中

は羽根を打つことができませんでしたが、今できることを一生懸命やりました。そうやって頑張ってきたことは決して無駄にはなっていないと思います」と話していました。 今でも新型コロナウイルスにより練習や試合ができないスポーツがあります。この状況をいかに前向きに乗り切るか、それがこれから先の結果につながっていくのかもしれない。 **優勝は新たな目標への第一歩** 今回の優勝により、2022年は全道大会が免除され、全国大会からの出場となります。松下君は「お父さんやチャンドラさんから練習でいろいろなことを教えてもらい、ナショナルチームのコーチからもアドバイスをもらったおかげで勝つことができました。とても感謝しています。また、大会が終わってお祝いをしてくれた方や応援してくれた皆さんにも感謝しています。ありがとうございます。今後、全国小学生ABC大会と全日本小学生バドミントン大会の二つの大会で優勝したいです。その夢に向かってまた頑張りたいと思います」と、意気込みを話しました。 2022年、松下君のさらなる活躍が今から楽しみです。



12月30日、JR白糠駅で松下君を出迎えました